

ロータリー平和フェロー18期生歓迎スピーチ

15期生 ローン・アンダーソン

歓迎

親愛なる 18 期生へ、

「おめでとう！
今日は君の日。
素晴らしい場所に旅立つ日！
ずっと遠くに旅立つ日！

君の頭の中には脳みそがたっぷり
君の靴の中には足がぎっしり
自分で舵が取れるんだ
自分が決めたどんな方向へも

君は君のもの。自分が何を知っているかもわかっているだろう。
どこに行くかを決めるのは、まさに“君”なんだ
ドクター・スース『きみの行く道』

ドクター・スースによる名作『きみの行く道』からの言葉だというのがわかる人もいますか
と思います。これは正にロータリー平和フェローとしての皆さんへの言葉です！ここまで来
たそれぞれの道のりや、またこの奨学金がどのようにより素晴らしい場所に繋がっていくか、
そういう話が聞けるかと思うととても楽しみです。

ロータリー平和フェローシップへようこそ！私の名前はローン・アンダーソンと申します。
私は 15 期生の一員で、本日ここで歓迎のスピーチをさせて頂くことをとても嬉しく感じて
おります。ここで私の想いを代弁してくれる、励ましに満ちた一番の言葉は下記でしょう。

「君の頭の中には脳みそがたっぷり。
君の靴の中には足がぎっしり。
だからこそ、日本での年月、2年間を驚異的に素晴らしいものに出来るんだ」

祝辞

まず大事なことから！本当におめでとうございます！皆さんがここに座っていること、
その事実が重要な実績です。ひとりひとりが、ICU に選ばれた 10 名の代表の 1 名であり、
また今年、世界中で 50 名選ばれた、ロータリー平和フェローシップ修士課程プログラムの
代表の 1 名でもあります。全世界中の応募者から選ばれた 50 名のうちの 1 名になることは、
とてつもない実績だと言えるでしょう。

この実績はこれまでの激務や、また世界的・地域的に貢献してきた献身的な姿勢の賜物と思います。これからの2年間で、同期の平和フェローのスキルや能力、これまでの経験を知り得る機会があれば素晴らしいと思います。

コミュニティ開発、人道支援、政府機関、宗教関連、またその他の平和に関わる仕事は気力・体力を使う、難しい仕事です。自分のエネルギーをフル稼働して取り組む大変な業務であるのにも関わらず、時には感謝の言葉を掛けられないこともあるでしょう。

そういう訳で、私は祝福の言葉を気楽な気持ちで言っているのではなく、これまで多くの障害を乗り越えてきた皆さんを広く肯定する意味の祝福と捉えていただければ嬉しいです。おめでとうございます。

数々の機会

過去のことばかり取り上げていても仕方ありません。私の経験上、このような新しい出来事は、将来に向けての新しい活力や刺激が受けられる素晴らしい機会となります。このことについて、ドクター・スースの言葉以上の言葉が見つかりません。ロータリー平和フェローシップとは；

「自分で舵が取れるんだ
自分が決めたどんな方向へも」

修士号を取得する上で、また日本で生活する上での助けになればと思い、下記に共有したいと思います。

- 皆さんはここに学問をしに来ており、ICUでは平和学の分野で素晴らしい思想家達に出会えるでしょう。平和学のプログラムでは、何を選択するか、どのように自分の研究を発展させるかについて、とてつもなく大きな自由と柔軟性が与えられます。ICUでは自分の考えの幅を広げることや、既に知っていると思っていたことをクリティカルに検証すること、平和に関連する将来の仕事に貢献できるスキルを学ぶ機会があります。これは学問的にです。つまり、多くの文献を読み込み、多くのレポートを書かなければいけないということですが、この修士プログラムはあなたの興味に合わせて仕立てられる余地が多くあります。どうぞ、あなたの興味に合わせて、多くの機会を探り、多くの教授陣やセンタースタッフ、アドバイザーとコミュニケーションを取り、自分の思う道に舵を取ってください。
- 学問的なこと以外では、日本にいること、世界的にも人口の多い都市に住むことは素晴らしいことです。私のフェローシップのハイライトの多くは、様々な温泉と居酒屋、北海道の雪原、そして広島平和記念資料館でした。日本は魅力的なところで、日本の持つ豊かな人間性と文化に触れることでよりその魅力が増します。特に私は、ホスピタリティや尊敬の意の考え方について、日本の生活の中でかなり影響を受けました。この基本的な姿勢は、将来のキャリアを豊かにするものと実感して

います。皆さんもこの美しい国を探求し、楽しむことのできる機会が多くあるようにと願います。

もちろん、このプログラムでは多くのレクチャーやシンポジウム、会議に出席できる機会が多くあります。加えて AFE も人生で一度きりの重要な機会です。

あなたが勇気を持ってそれらを最大限活かすことができれば、このような機会の全ては、皆さんの 2 年間で本当に素晴らしいものにしてくれるでしょう。ぜひそうしてください！同時に、このプログラムの重要な 2 つの基本を忘れないようにしてほしいと思います。それは日本に住んでいること、そして皆さん自身の学問・研究です。自分で自分の舵が上手く取れれば、皆さんのフェローシップは素晴らしいものになるでしょう。

挑戦

ここで、これからの 2 年間でそう簡単なものではないということをきちんとお伝えしなければいけません。下記、もう一度ドクター・スースの言葉の引用です。

「とっても言い難いことだけど、
傷つくこと
不安になること
どちらも君に起こり得ること」

大胆なことを言わせてもらおうと、フェローとしての経験を最大化させるという挑戦とは、そのままのあなた自身でいるということです。学問の世界に戻ることでフラストレーションや、周りからの助けが無い感覚、異文化の中での孤独、簡単にコミュニケーションが取れないことの難しさ、新しい生活リズムの受容は、全て挑戦が伴います。皮肉なことに、最も孤独を感じるのは世界で最も人口の多い都市を歩いている時なのです。

加えて、あなたをここまで助けてきた、正にそのスキルがここでの時間を楽しむことの大きな障害になるかもしれないのです。皆さんの多くが、これまで、システムの課題を見つけ出し、修正し、素晴らしくクリティカルに物事に対処してきたことと思います。この強みは時に、自己内省の時間を使うことや知識基盤を固めること、以前の忙しくて要求の多い役割を離れてリフレッシュする機会を得ることの障害になるかもしれません。

このプログラムの目的は、自身のスキルを高め、知識を発展させて、より有能になって社会に戻ることです。あなた自身のケアを意識的に行い、自分自身が何を求めているのかを把握することに努めてください。これから直面する挑戦の数々は、決して打ち勝てないものではありません。賢明に取り組み、あなた自身を気に留め、そしてどうぞお互いを気に掛けてください。

励まし

「だから、踏み出すときは確認して

細心の注意と素晴らしい機転で踏み出すんだ
そして覚えておいて
人生は偉大な綱渡りだってことを」

最後にもう一つ励ましの言葉として贈りたいのが、フェローシップは競争ではないということです。このプログラムの真の美しさは、あなたがどれほど優れているかを大学もしくはロータリーに示すためにあなたがフェローとして選ばれたわけではない点です。あなたの成績が相対的な評価を受けたり平均点と比べられたり、また別の恩恵を受けるために誰かに密かに観察されていたり、ということはありません。競争率の高い選考を勝ち抜いたことで、今は、大学、周囲の文化、そしてお互いから学ぶ機会を得ているのです。

クラスメート達の実績を見るにつけ、なぜ自分が平和フェローに選ばれたのか不思議に思うこともあるかもしれません。研究が進むにつれ、果たして自分がクラスメートのように賢く、才能があるのか考えることもあるかもしれません。ですがもう一度強調します、これは競争ではないのです。

学ぶ自由、刺激を受ける自由、成長する自由、そしてクラスメート、ICU スタッフ、ロータリアン、そして同窓生からのサポートを受ける自由があるという文脈においては、あなたが何か判断されるわけでもなければ、何かの地位を失うことでもありません。

これから直面する困難なことや挑戦の数々を、全てあなたに必要なことだという感謝をもって、是非やり通してください。

結び

それでは、最大の質問です。最初に戻り、ドクター・スースの示唆に富む文章を使い、結びとします。

「それで、君は成功するかな？
もちろん！絶対にね！
(98 と 3/4%は保障されてるんだ)

平和フェロー、山だって動かせるよ！

だから…
素晴らしい場所に旅立とう！
今日は君の日！
君のフェローシップが待ってる
だから…、さあ出発しよう！」

本日はありがとうございました。

ICU ローターリー平和フェロー12期生 クリストファー・ケイド・モズリー

皆さんこんにちは。ケイド・モズリーと申します。ファーストネームではなく、ケイドというミドルネームを使っています。ICU ローターリー平和フェローの12期生です。アメリカ人でテキサスで育ち、ニューヨークとワシントンで働いていました。ICUを2015年に卒業してから「ヒューマン・ライツ・ナウ」という、東京にオフィスがあるNGOで働いています。ヒューマン・ライツ・ナウは、アジア地域の人権に関わる調査報告書等を発行している団体です。ICUの近くに住んでいますので、新入生の皆さんが私と話したり、聞きたいことがあれば、遠慮なく聞いてください。

今日の私の役目は、フェローシップについてのオリエンテーションと、皆さんが何を期待すべきか、またICUで平和フェローとしての機会を最大限活かせるようにいくつかのアドバイスをすることです。私の時も同じようなオリエンテーションの機会がありました。ですから、皆さんが今どういう気持ちで、興奮と好奇心をもって、このフェローシップのスタート地点にいるか、何となく想像できます。

まずは、修了生を代表し、皆さんを歓迎します。平和フェローには強力なネットワークがあり、今まさに皆さんはそれに加わったところです。このグループはとても面倒見がよいです。皆さんはもう既に私たちの一員であり、温かく迎えられていると感じていただければ幸いです。皆さんはもちろん、あなたたちを支えている日本のロータリーや、ICU ローターリー平和センターを含むICUコミュニティの一員でもあります。平和フェローの長い行列の一部にあなたたちももう並んでいるのだと思ってください。

フェローシップについて私が申し上げられるとすれば、それはICUの大学院生であることと、そしてロータリーコミュニティの一員であることのコンビネーションであるといえると思います。

ICUの大学院生であるということは、皆さんの毎日の生活のほとんどを占めます。クラスに出席したり、宿題をやったり、プレゼンテーションを行ったり、試験勉強をしたりといったことです。これは皆さんにとって何も初めての経験ではないと思いますが、日本という国、またICUで学生生活を送るにあたって、いくつかお伝えしておきたいと思います。

まず、皆さんは大学院の公共政策・社会研究専攻というプログラムに属するため、たくさん人の授業と一緒に受けることになります。平和フェローだけでなく、同じ専攻の他の学生も一緒です。これはとても良いことです。みなさんはお互いに助け合ったり、授業についてアドバイスをもらったりすることができるからです。

皆さんの共通の質問として、日本語の授業（ICUの Japanese Language Program=JLP のこと）を取るべきかどうか？ということがあると思います。取る人もいれば取らない人もいます。私は2年間ずっとJLPをやりましたが、その経験からいうと、もしJLPをやったら、とても時間をとられるということです。JLPをしながら、さらに3つ以上授業をとるのは不可能でしょう。私は修士論文を準備するために履修を断念しました。一方、JLPの利点を挙げるとすれば、JLPの成績は卒業要件のGPA（成績平均点数）に影響しないということです。ですから、JLPにトライすることで良いですが、大変になった場合は授業についていくことができないことは、あまり心配せずに必修科目に集中したらいいと思います。

また、学生活動や学生生活にどうやってなじんでいくか、ということも皆さん知りたいと思います。日本の学校での学生生活に入っていくのはちょっと大変そうに思うかもしれませんが。私は学生サークルに入ることをお勧めします。12期の平和フェローは、コーラスのサークルやテニスクラブ、本の点字翻訳のクラブ、書道やアイリッシュフォークミュージックなどのサークルに参加していました。サークルに入れば日本人の友達ができますし、学生生活によりなじむことができます。

また、皆さんのお世話をしてくれるロータリーセンターも、皆さんが参加できるイベントを企画してくれます。

もう一つ伝えたいのは、皆さんは企画された行事に参加するだけでなく、自分たちで企画することもできるのだということです。皆さんは自分たちで行事を企画し、会場を決め、参加者を募ることができます。私は、これはICU学内でのロータリーフェローの存在感を高め、ICUのコミュニティに貢献するためにとってもいい手段だと思います。何か起きるのを待っているより、自分で始めたほうが簡単なときもあります。

いくつか例をお話ししましょう。12期生と13期生は協力して、女性の人権保護に関するセミナーを行ったり、ネルソン・マンデラに関するセミナーシリーズを開催したり、自主的に平和と国際関係に関するレクチャーを行ったりもしました。

そのほかに、皆で旅行に行ったり、レストランやカラオケに行ったりすることも、もちろんおすすめします。私たち12期生は、皆で近況を報告しあったりする気楽なミーティングを定期的に開いていました。誰かが何か悩みを抱えていたりするとき、お互いに励ましあったり、助け合ったりするのにとてもよい機会でした。皆さんは互いによく話し合っ、どういうやり方が自分たちにとって一番やりやすいか決めるといいと思います。こうでな

ければならないということはありません。私はただ、皆さんが互いにつながりを感じながら学生生活を送れるように、おすすめの方法をお話ししました。

もう皆さん既にご存知だと思いますが、来年の夏皆さんは AFE（実地研修）に行きます。AFE については、ゆっくり考えるのに皆さん十分な時間がありますが、私からのアドバイスは、早めに考え始めたほうがよいということです。そうすれば、夏より前に色々なことを計画的に進めておくことができるし、夏が近づくにつれて焦ったりストレスを感じたりすることはありません。

AFE は、修士論文のためのリサーチをするのにとってもよい機会です。皆さんの 2 年目の大きな部分を占めます。これに関連して、1 年生のうちから修士論文のテーマを考え、いくつか関連文献を読んだりリサーチをしておくことも大事だと思います。私たち 12 期生は、お互いの修士論文についてサポートしあうことも非常に役立つと感じました。

大学院生の部分については以上です。最初にも申し上げましたが、平和フェローシップの 2 番目に大きなこととしては、ICU、東京やその周辺地域のロータリーコミュニティの一員になるということです。もういくつかロータリーの行事に参加して実感していると思いますが、ロータリーのコミュニティは喜んで平和フェローシップをサポートしてくれますし、皆さん全員がこの大きなコミュニティの一部となり、日本であたたかく迎えられていると感じられるように支援してくれます。

ロータリーが提供するものは、あなたのホストカウンセラーやホストクラブからロータリーの行事まで、何でも最大限に活用してください。また、ロータリー平和センターは皆さんをサポートする非常に重要な役割を担っています。何か問題があれば相談するようにしてください。また、もし何かアイデアなどがあれば、彼らはいつもオープンに聞いてくれます。

平和センターは私たちに、（私が思うに）キャンパス内でもっとも素晴らしい勉強部屋を用意してくれています。ぜひこれを活用してください。フェロー部屋は、皆さんがイベントをしたりディスカッションしたり、もちろんただ単にみんなが集まってお喋りしたりするのに最適な場所です。

いちばん最後に申し上げるべきことは、平和フェローとして最も基本的、中心的なことは、平和へのフォーカスということです。私たちのフェローシップは、新しいことを学ぶことやコミュニティの一員となることだけではありません。ミッションがあるのです。

結局のところ、私たちは世界をよりよくするための能力を身につけるためにここにいるといえます。あなたがそのことを理解すれば、平和は様々な形で訪れます。私は平和フェローが様々な課題に取り組むのを見てきました。宗教紛争やジェンダーの権利、人種問題、貧困、保健、紛争解決、性的人身売買、野生動物の違法売買、気候変動、水資源の確保、土地の所有権、そのほかのあらゆる課題です。

これらすべてが、平和フェローシップの機会を活かして世界に貢献するための方法です。私は、あなた達がそれぞれの関心分野でこの伝統を引き継いでいってくれると確信しています。もし、こうしたあらゆる活動に通じる一つのテーマがあるとすれば、それはグローバル・ジャスティス（世界規模、地球規模の正義）だと思います。とりわけ、我々が互いに関わりあう世界において大変な負担を強いられることの多い、立場の弱い人々のためのグローバル・ジャスティスです。

そして、我々は世界で互いに関わりあっているからこそ、忘れられた人々や世界の片隅にいる人々が直面する課題を、それが遠い国で起きていることであったり、声が伝わってこないからといって、これ以上見過ごすわけにはいきません。彼らの声をきき、建設的な対話ができるようにすることは私たちの仕事なのです。

このような対話に貢献できることは、平和フェローシップの最も素晴らしい貢献の一つだと思います。皆さんがこの素晴らしい機会に恵まれたことはとても喜ばしいことです。皆さんのフェローシップの成功をお祈りします。旅を始めましょう。どうもありがとうございました。